

令和7年度第11回理事会議事録

議事録作成者：事務局長 松谷昌典

1 日 時：令和8年1月28日（金） 19：00～22：00

2 場 所：公益社団法人日本パワーリフティング協会 本部事務局
〒678-0239 兵庫県赤穂市加里屋98-16

3 出席者（敬称略、順不同）：

【理事】古城資久、高井隆義、実島可斉、杉本好二、田中彰子、小野琢司、
福島政幸、鈴木光、野上広志、寺門浩之、菅生桃子

※理事総数：15名、本日の出席理事11名

※三浦重則、芦崎高志、太田宏暁、小塩康祐は都合により欠席

【監事】安原 徹、石原美保

※監事総数：2名、本日の出席監事2名

【陪席】二宮正晴（技術委員長）

佐々木陽一（国際副委員長）

篠原孝志（広報委員長）

松谷昌典（事務局長）

理事の古城資久、高井隆義、実島可斉、杉本好二、田中彰子、小野琢司、福島政幸、
芦崎高志、鈴木光、野上広志、寺門浩之、菅生桃子、監事の安原徹、石原美穂は電話
会議システムを利用することによりこの会議に出席し、質疑・決議を行った。

4 開 会

定刻、古城資久会長（代表理事）が理事会運営規程により議長となり、電話会議システム
により出席者の音声の伝達がスムーズであり、質疑応答に支障がないこと、及び定足数を
充足していることを確認したうえで、本理事会を開催する旨を述べ、議案の審議に入った。

5 議 長 古城資久

6 議 事

第1号議案：第1回グレートゲームズ旅費及び諸謝金承認の件

本事業は当協会初の自費事業であり、旅費、諸謝金および褒賞金の支給に
関する規定が整備されていない。そのため、本大会においては「助成金交
付事業に関わる旅費及び諸謝金規程」を準用して支出することについて議
場に諮られた。審議の結果、出席理事全員一致で原案通り承認された。

第2号議案：グレートゲームズ実働理事への謝金支払い承認の件

大会運営に審判等で従事する理事（古城、杉本、実島）への1万円の謝金支

払いについて、対象者ごとに個別に議場に諮った。審議の結果、古城理事への支給については同理事を除く出席理事全員一致で、杉本理事への支給については同理事を除く出席理事全員一致で、実島理事への支給については同理事を除く出席理事全員一致で、それぞれ原案通り承認された。

第3号議案：2026年度JADA自費検査導入承認の件

JADA自費検査導入について審議した。検査費用自体は予算内であるが、陽性疑い発生時の聴聞会実施費用が極めて高額であることが判明した。本協会が負担することも困難であることから、スポーツ基本法等の趣旨に鑑み、経済的理由によって適正な聴聞手続きが妨げられることがないよう、JADAへ意見書を提出することが検討された。JADAからは1月末までの意向回答を求められているが、一度応募すれば高額な費用負担を含む契約が成立する懸念がある。そのため、検査の実施自体は希望しつつも、現時点では回答を保留し、本件については継続審議とすることが決定した。

第4号議案：中国海南省への日本選手団派遣及び団長への旅費及び諸謝金支給承認の件
当初の年間事業計画には含まれていなかったアジア大会への日本選手団派遣について審議した。本件を公募したところ6名の参加希望があったことから、派遣を検討した。現地の情勢については、外務省の海外安全情報において危険情報が出ていないこと、および上海在住の本協会関係者からの現地情報に基づき、特段の危険性はないと判断した。以上の状況を踏まえ、選手団の派遣および団長への謝金支給について議場に諮った。審議の結果、本派遣計画は出席理事全員一致で原案通り承認された。

第5号議案：技術委員会提案事項

(1) 全国大会における賞状のPDF化について

全国大会における賞状の発行運用について審議した。近年の参加人数増加に伴い、記録集計および統合段階でのシステムエラーが相次いでおり、現場での賞状書き直し作業が頻発している。こうした事務負担の増大を解消し、あわせてペーパーレス化を推進するため、今後は大会終了後にデジタルデータ（PDF）にて賞状を提供・ダウンロードする運用への変更を議場に諮った。審議の結果、本案は出席理事全員一致で承認された。

(2) 技術委員会人事（新任および副委員長選任）の件

技術委員会の体制強化のため、以下の人事が議場に諮られた。

(ア) 技術委員の追加

森 千恵子

(イ) 副委員長の選任

長江 由美子（技術委員より昇任）

審議に際し、技術委員長より兩名のプロフィールシートおよび推薦状が提示され、実績と適格性について説明がなされた。審議の結果、出席理事全員一致で原案通り承認された。

第6号議案：アジア連盟ボードメンバー推薦の件

アジア連盟より、同連盟のボードメンバーの推薦依頼を受けた。これに対し、日本代表として岡村美里氏を推薦することについて議場に諮った。審議の結果、同氏のこれまでの実績と適格性が認められ、出席理事全員一致で推薦の原案通り承認された。

第7号議案：JOC通知に基づく国際大会選考プロセスへの理事会関与の件

他競技団体における選考手続きの不備事案を受け、JOCより各加盟団体に対し、選考プロセスへの理事会の適切な関与を求める通知がなされた。これを受け、特定の担当者や事務局に一任せず、理事会として選考プロセスの透明性と正確性を担保する体制を構築することについて議場に諮った。また、IPFの規定変更により、大会初日の30日前までに最終エントリー等の承認手続きを完了させる必要がある。これに対応するため、今後は大会の40日前を目途に理事会を開催し、選考内容を相互に確認・承認する運用とすることが提案された。審議の結果、出席理事全員一致で本案の通り承認された。

第8号議案：IPFコーチ資格必須化に伴う国際大会派遣方針の件

IPF（国際パワーリフティング連盟）の規定により、国際大会のチーム派遣には資格保有コーチの帯同が義務付けられた。しかし、本協会においては、長期間（約10日間）の海外遠征に対応可能な有資格者が不足しているほか、遠征費用の捻出や、仕事等による個人の負担増が深刻な課題となっている。また、実務能力と統率能力を兼ね備えた適任者の確保がきわめて困難である。これらの人的・経済的リソースの不足により、現状では派遣体制を維持することは限界に達している。これらを踏まえ、今後の派遣方針について以下の通り議場に諮った。

- (1) ヘッドコーチへの謝金として15万円を支給し、可能な限り団長がこれを兼務すること
- (2) 適切なヘッドコーチ（有資格者）を確保できない場合は、派遣自体を中止することがある
- (3) 直近の2026年3月開催のアジア大会（中国海南省）についても、有資格者の確保が困難な場合は派遣を見合わせる

審議の結果、国際ルールの遵守と健全な協会運営を優先し、上記の方針が出席理事全員一致で承認された。

第9号議案：高校連盟からの提案に基づく「引率責任者」の定義および規程整備の件

高校連盟より、サブジュニア選手の国際大会派遣における「引率責任者」の定義を規程に明文化してほしいとの要望がなされた。現行の運用では「成人の帯同」を条件としているが、実態として、同一ジムの年長者が引率者として登録しながら先に帰国したり、選手への適切な監督が行われない事例が報告されている。これを受け、未成年選手の安全確保および競技に専念できる環境維持のため、引率責任者が果たすべき義務や役割を厳格に定義する必要がある。本件については継続審議とし、事務局において具体的な規定案を作

成した上で、次回理事会にて改めて諮ることとした。

その他議案：(1) 大会参加賞の配布運用および選定に関する件

大会終盤の表彰式において、帰路の都合等による途中退席者が多く、出席率の低下が課題となっている。これに対し、表彰式会場にて参加賞を授与することで出席を促す案が検討された。具体的な品目については、過去の大会で実用性が高く好評であった「ボールペン」を基本とし、コスト面での妥当性も確認された。ただし、開催地にゆかりのある好適な物品がある場合は、地域性を考慮した選定も妨げないものとする。審議の結果、本案は出席理事全員一致で承認された。

(2) チャイニーズタイペイへの役員派遣承認の件

チャイニーズタイペイで開催される大会に関連し、先方連盟より澤千代美氏の派遣要請がなされた。本件の渡航および宿泊に係る費用については、全額先方負担となる。審議の結果、本派遣要請について出席理事全員一致で承認された。

(3) 2024年度 JKA 助成事業 2次評価（現地調査）の実施および旅費等支出承認の件

2024年度 JKA 助成事業の2次評価を実施するため、長崎大学へ杉本理事を、対馬高校へ松谷事務局長をそれぞれ派遣し、現地調査を行うことが議場に諮られた。本調査では、助成により導入された設備の使用状況および管理体制の確認、ならびに利用者へのアンケート調査を実施する。これに伴い、調査に必要となる旅費および宿泊費を支出することについて審議した。審議の結果、出席理事全員一致で原案通り承認された。

(4) 令和8年度コーチ1講習会開催場所承認の件

令和8年度中央スポーツ団体主催コーチ1講習会の開催地について、埼玉県協会の主管により、サイデン化学アリーナ（さいたま市記念総合体育館）にて開催することが議場に諮られた。日程は6月13日から14日の2日間を予定している。当該会場は必要な器具が完備されており、講習会の実施に最適であると判断された。審議の結果、出席理事全員一致で原案通り承認された。

(6) 簡易ドーピング検査の実実施計画承認の件

国内競技大会における簡易ドーピング検査の実実施計画について審議した。検査の実効性および秘匿性を確保するため、具体的な対象大会および検体数については非公開とし、年次予算の範囲内でアンチドーピング委員会が適宜決定・実施することとした。あわせて、全大会の募集要項に「簡易検査を実施する可能性がある」旨を明記し、参加選手への周知と啓発を図る。なお、本検査はブロック大会も対象に含めるものとする。審議の結果、出席理事全員一致で原案通り承認された。

(7) IPF オープン大会における年齢制限撤廃の提案に関する件

IPFの規定により、マスターズ3以降の選手がオープンの国際大会に出場できない現状について審議した。本来、オープンカテゴリーは性別を

除き、年齢に制限なく実力で競い合うべき場である。現行の年齢制限は「スポーツの平等性」に反する懸念があり、その制限理由（安全性等の根拠）も不明瞭である。これに対し、本協会として、あらゆる世代が挑戦できるスポーツの在り方を追求すべく、当該規定の撤廃および再考を求める提案をIPF総会にて行うことが議場に諮られた。審議の結果、出席理事全員一致で本案の通り承認された。

(8) アスリート委員会人事（委員長および副委員長選任）の件

委員会役職者の選任について議場に諮った。

委員長 久保匡平

副委員長 本多まゆみ

審議の結果、出席理事全員一致で原案通り承認された。

報告事項：(1) IPFルール変更の国内適用について

技術委員長より、国際パワーリフティング連盟のルール変更に伴う国内運用の取扱いについて報告がなされた。国際ルールは本年3月より適用開始となるが、国内においては、準備期間および年度の区切りを考慮し、本年4月1日より全面適用とする旨が説明された。

(2) 2027年度日本スポーツマスターズ記念事業の会場選定および進捗について

静岡県で開催される「日本スポーツマスターズ」において、当協会が記念事業として参画することが報告された。現在、会場として「ふじさんめっせ（富士市産業交流展示館）」の借用について調整を進めており、確保の見通しが立った。今後の進め方として、本年秋口を目処に静岡県スポーツ協会を訪問し、正式に開催要請を行う予定である旨が説明された。

(3) コーチ資格義務化に向けた進捗状況について

日本スポーツ協会等の指針に基づき、国民スポーツ大会、日本スポーツマスターズ、および全日本実業団大会におけるコーチ資格の必須化が順次進行していることが報告された。本協会における今後の方針として、現在は先行導入による効果や影響を検証している段階である。そのため、現時点では罰則規定などは設けず、引き続き資格取得の強力な推奨に努める。より多くの指導者に資格取得を促すことで、指導現場の質的向上を図る方針である旨が説明された。

(4) 香川ベンチ大会成績処理の報告

香川県で開催されたベンチプレス大会において、公式記録表の記入ミスが多数発生し、加えてコンピュータ上のデータ破損により成績復元が困難な状況となった旨が報告された。事務局にて可能な限りの復元作業を試みたが、完全な修復には至っていない。この事態を重く受け、今後の再発防止策として、記録表に選手および審判員等が自署する確認欄を新たに設けることとした。これにより、データ障害が発生した際でも、本人および審判等の署名が入った原本を「正式な記録」として保管・照合できる体制を構築し、記録の正確性と信頼性を担保する方針である旨が説明された。


以上をもって、電話会議システムを用いた本理事会は、終始異状なく全議案の審議を終了したので、議長は22:00に閉会を宣言した。

上記の議決を明確にするため、出席会長（代表理事）及び監事が次に署名又は記名押印する。

令和8年1月28日

公益社団法人日本パワーリフティング協会理事会

会 長
(代表理事)

古城 寛久 

監 事

安原 徹 

監 事

石原 美保 